

3月は院内で2つの講演会が行われました。今回で61回目を迎える「新おりひめの会」と、初開催となる地域に向けた勉強会「はるかぜ塾」。どちらもテーマは「認知症」でした。前回、前々回とネットワークでも特集しましたが、春日クリニックが今もっとも力を入れている部分です。

第61回 新おりひめの会 開催 『更年期と認知症』

平成25年3月6日(水) 14:00~15:30
~ 春日クリニック はるかぜホール ~



更年期世代に伝えたい、認知症のとらえ方

~少し立ち止まって考えてみませんか~

《 清田院長 基調講演より 》

更年期と認知症。何の関係があるのだろうと不思議に思われる方も多いかもしれません。更年期世代の女性にとって認知症は親の介護という面でとても身近な問題です。それだけでなく、生活習慣病の治療をしないと認知症が進むというデータもあることを考えると、更年期は認知症予防にとってもとても大切な時期だと言えます。

更年期の相談では、自分が更年期症状で苦しむ時期に親の認知症介護が始まり、大きなストレスを受ける例を多く聞きます。

身内で愛情があるだけに腹が立ち、つい余計なことを言ってしまう。一方で認知症の方は叱られたと受け取り、言われたことに対し暴言を

吐いたり暴力を振るったり、抑うつ状態になるなど認知症状を悪化させてしまうことが多々あります。

認知症になっても感情は残ります。介護者の心得として言葉でむやみに分からせようとせず、聞き役で、笑顔で、そっと傍に寄り添い「その人らしさ」を尊重することを心がけましょう。

認知症介護は、他人事ではありません。自分もいつか年老いて認知症になるかもしれません。介護する時間は、自分自身が介護される時・命の終わり方にも思いをはせるいい機会だと思いませんか。自分の充実した人生のためにも、自分だけで抱え込まず、一緒にしっかり向き合っていきましょう。

同じ立場の介護者とのふれ合い

清田院長の講演後は、参加者との意見交換会が行われました。両親について怒鳴ってしまう話では皆さん「うちも一緒」とうなずかれ、顔を見合せながら苦笑いをされていました。

今回は実際介護関係の仕事をしている方も参加されており、「自分の仕事につなげていきたい。多くの方に喜んでもらうために、これからはしっかり勉強していきたい」という感想をいただきました。

多くの方から発言があり、とても盛り上がった意見交換会となりました。

認知症になっても安心な地域づくりを

会の最後には清田理事長も合流。今回のような会を重ねていき、地域で認知症をみて、みんなに囲まれて最期が迎えられるような地域作りを進めていきましょうとメッセージが送られました。

更年期女性にとってはとても奥が深い問題です。また、おりひめの会でも取り上げていきます。

